

(3)付議事項

南砺市男女共同参画推進プラン(第2次)の改定(案)について
前文(案)に関し、委員からの発言は下記の通り。

A委員:

これまで議論してきたことが非常にコンパクトにまとめられていると思う。あとは表現のところで気になったところについて、下段の2段落目に「男女共同参画社会の実現とは程遠い現状であると分かりました」とあるが、「男女共同参画社会のあるべき姿にはまだまだ不十分な状況である」といった表現にしてはどうか。程遠いというと断定的なイメージがあるので、まだまだ不十分といった表現の方がいいのではないかと思った。

また、その前に「未だ固定的な性別役割分担意識が高く、」とあるが、「意識が根強く残っており」といった表現の方がいいと思う。

続けると、「未だ固定的な性別役割分担意識が根強く残っており、男女共同参画社会のあるべき姿にはまだまだ不十分な状況である」となり、こちらの方がマイルドな表現になる。

B委員:

同じ段落で、「男女共同参画社会の実現とは程遠い現状であると分かりました。」について、「分かりました。」とあるが、「見えてきました。」といった表現の方が、断定的ではなく、全体的でなくそういった一面もあるという柔らかな表現になるのではないかなと思った。

C委員:

今のお二方のご指摘はおっしゃる通り、断定的な表現よりも今のような表現がいいと思う。

同じ段落について、「見直しにあたり、」以降、すぐアンケート調査について触れているが、その前にこの審議会でアンケートをとるに至った思いや経緯について少し加えた方がいいと思う。例えば、「審議会のメンバーの中で、「今の若者世代は男女共同参画について、これまでのような課題感を感じていないのではないか」という思いがあったため、若者・子育て世代向けにアンケート調査を実施し、現状を把握することにした。アンケート調査の結果、想像よりも厳しい現実が見えてきた」というような表現にすると、「分かりました。」と一言で表すよりもしっかりと感じるだろう。

D委員:

上段はじめの4行は、男女共同参画社会とは何かということが分かり易い表現で書かれており、いいと思う。

C委員:

先ほどA委員が言われた通り、この前文(案)をパッと読んだときに、今までの議論がコンパクトにまとめられていると思った。その上でさらに、審議会委員の意識や、計画期間の後半に向けた熱い思いを加えたいと思った。

もう一つ、最後の文において、総合計画においても「南砺に住んでよかった、暮らして

よかったと思える」という言葉が使われている。「一人ひとりが生き生きと自分らしく過ごすことができる市の実現に向け」の文のどこかに、「特に次の時代を担う世代が南砺市に住んでよかったと思える市に向け」などといった表現を入れると、総合計画とも連動するだろう。これから時代を担う人が、これからもずっと南砺市に暮らしたいと思えるというところを強調したい。また、南砺市らしさを悪い意味で引きずっているのは高齢の方が多い。自分たちのためよりも、これから時代を担う若い人たちにとっていいという観点をみんなにわかってもらう意味でも、そういったニュアンスの文言を最後に入れたいと思った。

E委員：

確認だが、この前文(案)のタイトルはどこに記載するのか。

事務局：

タイトルの記載は特に決めておらず、表紙の次に前文を加える予定である。

E委員：

プランの表紙にある、「～共に認め支え合う 南砺の明るい未来に向けて～」をタイトルとすると、前文のつながりが悪い。前文(案)の上段一文目で「男女共同参画社会とは(～中略～)、共に責任を担うべき社会」とあるが、「共に責任を担うべき」よりも、「共に認め支え合う」という表現にした方が。共に認め支え合うから、最後は責任を負いましょうという流れだと思う。

もう一点、「男女が対等な構成員として」の「対等」、「男女が均等に社会の利益を享受する」の「均等」、そして「平等」といった言葉の使い分けについては決めているか。私も調べてきたが、「均等」「平等」を使い分けないという人もいれば、「均等」「平等」はイコールではないとはっきり言われる方もいた。

事務局：

国や県の記載も確認し、再考したい。

F委員：

今言われた部分は、「できる限り均等」という表現にすると、皆に均等というよりもできる限り努力しようという気持ちが出るのではないかと思う。

C委員：

対等、均等など、事務局に再度調べていただき、間違っていない使い方をしていただければと思う。

また、E委員からお話のあったタイトルについては、あった方がいいか無い方がいいか。「共に認め支え合う南砺の明るい未来に向けて」をタイトルとすると、今の4行の中に「共に認め支え合う南砺の明るい未来に向けて」というニュアンスはなく、つながりが悪い。前文に、見直しの一番の核となった部分を表すタイトルを入れるとわかりやすいだろうと思う。

A委員：

やはり、見直しにあたっての考え方や検討経緯などを入れるといいのではないか。

C委員：

今いただいている前文(案)は半分以上、経過が書かれており、全体的に見直しにおける審議会の想いが薄く感じられる。その想いを端的に表すタイトルをつければよいと思う。

E委員：

この前文はどこに記載されるのか。また、市長の平成29年3月のメッセージ(プラン(第2次)策定当初のメッセージ)はこのまま使用するのか。

事務局：

表紙のすぐあとに前文を記載し、改定にあたりどういった想いで議論したか、改定の経緯などを明記した上で、実際の内容に入っていくイメージで考えている。

市長のメッセージは策定当初にいただいたものであるため、このまま記載したい。

C委員：

前文には「改定にあたって」等といったメインタイトルをつけ、さらにサブタイトルで思いを端的に表す言葉を加えたい。またこの前文は審議会の声明文という意味で、文の最後に、日付と「南砺市男女共同参画推進審議会」が入ってくるだろう。

サブタイトルは、例えば「南砺市の厳しい現状を認識して」「南砺市の弱みを乗り越えて」等だろうか。

D委員：

下段の1段落目の後に、審議会における改定に向けた想いや改定理由を詳しく入れられたらタイトルと文章がうまくつながると思う。

渡辺会長：

私もそう思う。

サブタイトルと、想い・理由の部分について、次回に向けて皆さんに考えてきていただきたい。

P4、P30～P32 の表記の検討に関し、委員からの発言は下記の通り。

F委員：

質問だが、P31 の(3)の黒文字の文章は残るのか。

事務局：

黒文字部分は、その下に記載している赤文字の文章に全て書き換える予定。

D委員：

P4の(2)の1文目で、「2026(平成38)年度」とあるが、平成をそのまま使うのか。

事務局：

令和に修正する。他の該当箇所についても同様に対応する。

B委員：

P32の文章内「男性中心で運営されがちな家庭、地域、職場の環境等において、積極的に女性の参画を促し」とあるが、女性だけ積極的に進めていくべきなのか。共に参加し、男女一緒にしていくことが男女共同参画に本来必要なことであり、積極的という言葉、さらに促すという言葉、女性に限定する言葉が適切なのか。

D委員：

パッと見たときには理解できるが、そう言われると確かにそのように思う。

B委員：

本来の男女共同参画は、(男女ともに参加していくことが)当たり前になってほしいところであるのに、なぜ積極的に女性の参加を促さなくてはいけないのか。

C委員：

女性も男性もどちらも積極的に参加すべき。それを女性だけに限定し、男性は女性に譲りなさいといったニュアンスになると逆差別のような感覚をもつ。ここをどのような表現にしたらいだろうか。

A委員：

「男性中心で運営されがちな」、「積極的に女性の参画を促し」という文言を無くし、「家庭、地域、職場の環境等において、男女が共に参画し、活躍できる社会づくりが～」とするのはどうか。

E委員：

しかし、「男性中心で」と限られているからこそ、それに対し女性はどうするのか、というニュアンスが出てくると思うので、無くしてしまうと少し弱い言い方になると思う。

「固定的な性別役割分担意識」という言葉を使い、「男性中心で運営されがちな家庭、地域、職場の環境等において、固定的な性別役割分担意識を見直し、男女が共に活躍できる～～」といった表現にするのはどうか。

一番重要なのは「共に認め支え合う」というところ。互いに認め支え合うから、役割は当然違ってくる。全て均等にするものではなく、「私はこれをするから、あなたはこれをしてね」という分担でまわっていくもの。男女共同参画を推進することは、全てのを男性：女性＝5：5にもっていくことではない。共に認め支え合うから進んでいくのだろう。

もう1点、P32の2段落目の1文目では「本プランを市民と行政の協働により」と記載しているのだから、P31(3)文章内の「行政や市民の協働によって」を、「市民と行政の協

働によって」にしたらいと思う。

B委員：

P31の「男性中心で」の部分は、今言われた「固定的な性別役割分担で運営されがちな家庭、地域、職場の環境等において、」という言葉をもってきて、性別を書かないのはどうか。男性女性ということを出さない。それが本当の平等で、お互いの責任意識でそれぞれ分担してお互いに尊重し合いながらやっていきましょうというニュアンスを出した方がいいと思う。

A委員：

その方がスッキリすると思う。

C委員：

多様性という観点からいうと男女という認識自体が差別であり、「誰もが」というところが大事。根底にある想いと矛盾しない言い方をする意味で、今のはとてもいいと思う。

B委員：

「男女が共に活躍できる」の男女の表記も、「性別に関わらず」といった表現になるだろう。

E委員：

上のサブタイトルも～性別問わず～とある。

C委員：

サブタイトルに合わせ、「性別問わず」の方がいい。サブタイトルとリンクしてくる。ちなみに、「性別問わず」が正しいのか、「性別を問わず」が正しいのか。

E委員：

「を」は入るだろう。

D委員：

「を」がないと、言葉がサラッと流れてしまうと思う。

B委員：

一度「を」で区切った方が、言葉の重みが出ると思う。

～～～

C委員：

P31(3)2行目で「弱みや課題に気づき」とあるが、「弱みや課題を十分に認識し(理解し)」といった、もう少し強く意識するニュアンスの方がいいと思った。

E委員：

P32 の1行目「人口減少によるコミュニティの維持増進」という言葉は下の文章とつながってこないと思う。人口減少と男女共同参画は違うのでは。

C委員：

市の方針として、南砺市の人口を維持していくためにも男女共同参画を推進していかなければいけないという認識は否定しないが、この一行は説明不足であり、説明を加えた上でも残すべきだろうか。

B委員：

より多くの人に参加することで人口が増えていくというニュアンスを文末の方に入れてしまうのはどうか。マイナスな面ではなく、プラスにみていくことで前向きになると思う。

C委員：

手段と目的が逆になっている。南砺市が将来的に持続可能になるという意味で男女共同参画を推進しているのか、男女共同参画を人権問題として、個々を大切にすることが持続可能につながるのか。この審議会ではどちらも大切だが、どちらかというと後者の、個々を大切にしていくという立場に立っている。今おっしゃったように、この一文を文末のところにもってきて、「暮らすことを誇れ、人口減少を食い止めることにもつながります」等といった表現にした方がいいと思う。

A委員：

「市民が共に認め合い、支え合うことで、」の後に「コミュニティの維持増進を図り」とつなげばどうか。

D委員：

男女共同参画と人口減少は何の関係があるのか、何度も考えたが、男女共同参画を推進していくと、南砺市はいいところだと感じ、人口が増えるということなのだと思う。その考えでいくと、これはやはり上下逆だなと思う。

C委員：

「コミュニティの維持増進」という言葉も、なかなか聞かない言葉である。「コミュニティの維持発展」といった表現でいいのでは。

B委員：

「コミュニティの活性化」とか。

最後の一文を、「南砺市に暮らすことを誇れる社会の構築と、コミュニティの活性化を目指します」とすることで、そこに参加する市民が増えていくことを願うニュアンスにするのはどうか。

C委員：

活性化という表現はいいと思う。多少人口が減少しても、活性していれば衰退ではない。また、人口がただ増えればいいというものでもない。

B委員：

にぎやかな印象が伝わることで、人口が増加していくニュアンスもつながればいいと思う。

G委員：

「人口減少」という一文は、生産年齢人口が減っていく中で担い手を出来るだけ増やそうという時期があり、その時代背景を色濃く表している表現だとは思う。この5年で女性活躍やウェルビーイング(真の幸福)がいわれる中で、人権や、満足感、幸福感を尊重するようになってきており、この変わってきている部分を反映させることができる場所だと思う。

C委員：

一人ひとりの人としてという部分は今特に色濃いところ。その観点でみて違和感ない文章にした方がいいと思う。「人口減少」の部分を、今お話しにあったように最後の一文に加え、直すのでしょうか。

～～～

C委員：

1点質問だが、P30の1.(1)2段落目で「一方高齢化率は既に全市人口の36.2%であり、10年後には40.1%に達すると見込まれています」とあるが、現在の数値はでているか。書き換えるのではなく、この数値はそのまま残し、注釈として(※R4年現在は0%)というように入れてはどうか。

事務局：

確認し、記載したい。

G委員：

36.2%の後にも年限を入れておいた方が分かりやすいと思う。

E委員：

「10年後」ではなく、「2000年には40.1%」の方が分かりやすい。

成果目標指標(P47～P50)の加除修正、R8(R6)年度に向けた目標値の確認に関し、委員からの発言は下記の通り。

A委員：

P47で、2(1)の成果目標指標として、「人権啓発活動回数」とあるが、何の回数か。

事務局：

人権週間に市内のショッピングセンターで実施される啓発活動や、人権のつどい、市内小学生向けの人権の花といった活動の回数である。

近隣市にもこの成果目標指標が使われており、同様の成果目標指標を入れることで他市と比較した現状把握もできると考え、記載した。

C委員：

入れることはいいが、これは人権擁護委員がしている活動であり、増えたからいいというものでもない。

人権擁護委員は砺波市、小矢部市と3市で砺波地区の協議会であり、一緒に活動するものもあれば、3市で1年ずつ順に開催するものもある。また、保育園で人形劇をし、人権を啓発する活動もある。これらを数えると、4回ではないと思う。カウントの仕方はどうなのかと思った。

～～～

C委員：

1.(1)の成果目標指標「南砺市がジェンダーギャップの解消に取り組んでいると思う」と回答した市民数/有効回答数」のR8年の目標値が30.0%となっているが、これでいいか。

A委員：

いいと思う。

B委員：

高めに設定しておいた方が、インパクトが大きいと思う。

～～～

E委員：

人権啓発活動というのはとても幅が広い。人権教育の推進は教育委員会担当しており、人権啓発は法務・生活関係の部署が主であり、別ルートである。また、人権関連でいうと、子どもや高齢者が先にきて、女性はトップではない。

C委員：

「2. (1)配偶者等からの暴力防止」という項目において、今の人権啓発活動回数という成果目標指標は、どうなのかなと思う。

E委員：

「2. (1)配偶者等からの暴力防止」からみて、女性に関する人権の問題と言うとDVが当てはまる。

B委員：

前回の議事録にもあったが、中学生、高校生向けのDVIに関する授業を一コマ作ってもらい、授業で学んだことを市のイベント等で発表してもらうのはどうか。子どもたちはもちろん、子どもたちが発表することで周囲の大人も見ると、広く啓発につながる。若年層、これからの若い世代に対して働きかけるのもいいと思う。

C委員：

人権擁護委員の活動として、人権教室というのがある。南砺市はそれほどしておらず、砺波市や小矢部市はしている。南砺市は街頭啓発活動が主だが、コロナ禍で出来なかったこともあり、人権教室をしたいと思ったため、小中学校向けにアンケートをとった。学校も働き方改革が進んでおり、新しい授業等をお願いすることが難しい状況の中ではあるが、3年くらいのローテーションで全学校にまわれるようにしたい。

しかし、小中学校向けだといじめや自殺防止といった話が主であり、DV関連でいうと高校生をターゲットにした方がいいと思う。高校生にも働きかけをしていくべきだが、今のところ高校生には何もしていない。南砺市内の高校は数多くないので、1年に1回高校でDV啓発活動をする等を、これからの目標として入れていってもいいのではないかと。

本審議会は色々な団体の推薦者が多い。それぞれの組織と連携し、何ができるか、新たに前進できるような取り組みを入れるというのもできたらいいと思う。

なかなか指標にしにくい取り組みもあるが、講演会などはしようとするればできる。そういうところから、推進していることが目に見えるような成果目標指標を入れられたらいいと思う。

B委員：

R8年の目標値が「継続」となっている。これはこれでいいが、成果目標指標を「回数」とすると、具体性に欠けるので、もう少し具体性があった方がいいと思う。

E委員：

「人権啓発活動回数」は「女性への暴力防止に関する人権啓発活動回数」とした方が基本方針につながる。

DVは割と若い世代から中年まで幅広く当てはまるが、デートDVは中学生や高校生から啓発していかないといけない。中学校や高校でプログラムを組んでもらうことと、合わせてパープルリボンのような啓発活動も実施していくべき。

A委員：

今おっしゃられたように人権そのものが幅広いので、「人権啓発活動回数」ではなく「DV 防止に関わる啓発活動回数」等にすればだいぶ具体的になる。

C委員：

全体的な人権意識を高めるといことと、もう一つ具体的に絞ったものを。成果目標指標を変えるのではなく、加えたらいいと思う。

～～～

B委員：

2. (2)の成果目標指標「女性・子ども相談室」へのDV相談件数について、以前も話したが、これは女性・子ども向けであり、男性向けではない。男性へのDVも現状としてある。

また、設置し、稼働しているかどうかまでが大事。相談件数ではなく、相談員の配置状況や窓口の開設状況を成果目標指標とするのもどうか。

C委員：

そういった窓口があるという広報もどこまでやっているのか。

例えば市に男性向けの相談室がなくても、県にこういった窓口があるということを紹介する、お知らせすることがまず大事。どこに相談したらいいのか、相談していいのかも分からない。

B委員：

窓口紹介カードを、パツととれるところに配置しておくのもいいと思う。

E委員：

紹介カードを学校で配り、大事なものだということを先生から生徒に伝えてもらうとか。

C委員：

例えば紹介カード自体を市でつくるのもいいし、広報誌に載せるのもいいのでは。

D委員：

まずは知ってもらうことが大切だろう。知らない人の方が多いと思う。

市の広報のチラシの1枚に含めるなど、まずは広報活動が大事だろうと思う。

C委員：

今出た提案を各担当部署に共有し、できそうなことから盛り込んでもらいたい。

～～～

A委員：

3. (1)の成果目標指標「自治振興会(31 団体)の」は自治振興会ではなく、地域づくり協議会に修正が必要である。

事務局：

修正する。

D委員：

3. (1)の成果目標指標「市職員の管理職の女性の割合」について、そもそも市の職員の男女比率はどうか。女性職員が少ないと、比率が一気にあがるだろう。

事務局：

担当課に確認するが、ここは国や県の基準に基づき市の計画で決められている目標値である。

G委員：

国や県、他市の現状を併記することも必要ではないか。併記することで南砺市と比較し、現状把握することにつながると思う。

A委員：

参考値として国や県、他市の現状値はあった方がいいと思うが、成果目標指標のところにあえてそれを併記する必要はないと思う。

～～～

A委員：

行政推進員の女性の数を増やすのはなかなか難しい。物を配るなどの実務や雑用が多い。

D委員：

これは区長のことだろうが、紙配りや行事の計画段取りをしている。

B委員：

今言われたように、庶務や雑務が多く、成果目標指標とするには達成も困難であり、現実的でない。

C委員：

基本方針である「政策・方針決定の場への参画推進」という意味で、行政推進員は

違うと思う。指標から除いてもいいのではないか。

G委員：

町内会という小さい単位の中で女性が政策や方針の決定に関与していくことを何らかの形で担保したい。

3. (1)の成果目標指標を、上から順にみると、「各種行政委員の中の女性委員の割合」は県であれ、市であれ、増やしていく事は今後当然のこと。次の「地域づくり協議会の会長等の女性の割合」は南砺市独自の枠での政策方針決定の場に女性を入れていくという意味で重要。段々細かくなっていく中で、町内会にも女性の参画を促す意味ではどう表記すべきだろうか。

C委員：

地域づくり協議会の方でリーダー的な女性が増えていけばおのずと行政推進員の女性の数も増えていくかもしれないし、今の段階で行政推進員を成果目標指標にするには無理があると思う。

～～～

A委員：

「地域づくり協議会の会長・副会長・部会長の女性の割合」について、それぞれの部会で男女比を決めているところもある。それを目標としてもいいのでは。

B委員：

部会長の割合で 25.0%、そして部会の構成員を 5 割女性にするという風にすれば分かりやすいし、達成可能な目標だと思う。

C委員：

部会の素質にもよるが、割と人足として必要な部会もある。そこに女性をとると、現状として家庭での家事等の負担もありながら、女性ばかりに役割が増えていくような懸念があり、本来の男女共同参画と違ってくるのでは。

A委員：

例えば防災部会等では5割女性は難しいだろうし、福祉部会のようなところはむしろ女性が多い。部会の性格を考えてメリハリを付けられたらいいと思う。だから、総数で考えた方がいいと思う。

C委員：

となると、「地域づくり協議会の会長・副会長・部会長以外の役員の総数」か。確かに、これは併記した方がいいと思う。地域づくり協議会によっては既に、役員を男女半分ずつにしようという約束でスタートしているところもあると聞いている。

B委員：

これは基本方針である「政策・方針決定の場への参画推進と人材育成」につながると
思う。部会で話し合ったことが上層部にあがり、決まっていく。

C委員：

部長以上の、理事会や運営委員会メンバーで決めることは圧倒的に多いが、例えば
交流センターまつりの中身を決めるなどといったことは部会でしている。

A委員：

部会で出てくるアイデアも多いし、とても機能している。

C委員：

地域づくり協議会そのものが部会の活動を重視している。これは成果目標指標として
含めていいと思う。

B委員：

その方が、今の成果目標指標である「行政推進員の女性割合」よりも地域との直接的
なつながりが見えてくると思う。

事務局：

では、上の成果目標指標「地域づくり協議会の会長・副会長・部会長の女性の割合」
に次いで、「地域づくり協議会役員の女性の割合(会長・副会長・部会長以外)」を含め
る。

C委員：

むしろ、地域づくり協議会が、(プラン(第2次)策定当初の)5年前にはなかった。地域
づくり協議会は役割や組織として網羅しているから、そこから男女共同参画の意識を高
めていく事はとても即効性があり、効果が波及しやすいと思う。

G委員：

様々な話題に、女性ならではの視点から方針を決定していく事が段々ベースとなり、
政治分野につながっていく気がする。

A委員：：

この目標は50%がいいと思う。

C委員：

そう思う。これは50%を目標としていいと思う。

	<p>閉会の時間がきたので、今回は3. (1)までの議論で終了とする。</p> <p>次回は3. (2)以降の成果目標指標の検討と、宿題として前文のタイトル・サブタイトルを考えてきていただく。</p>
(4)副会長あいさつ	<p>本日も熱心に協議いただいた。プラン(第2次)見直しということで、これまでを振り返るとこの5年の間に私たちを囲む環境が少しずつ変わってきていて、この変化している世の中に合わせて考えていかなければならないと思った。令和8年度にどのような成果目標を達成していくかということについて、引き続き考えていかなければならない。次回以降、皆様の自由闊達なご意見をいただき、良い成果目標を達成できるように目標を定めたい。ぜひ、今後も委員の皆様のご協力をお願いしたい。</p>
(5)その他	<p>次回の開催は改めて案内</p>
(6)閉会	<p>午後9時15分</p>